



秋田弁って、フランス語!

今年、1月23日から4日間、秋田県美郷町の介護事業所に足を運んだ。前日の22日、NHKの人気番組『鶴瓶の家族に乾杯』の収録がJ R大曲駅(秋田)の待合室を皮切

れ出したのだが、外国語のような発声が耳に飛び込んできた。

この出来事は、ネット上でも大きな反響があったということ、5月の再訪時に話題提供したところ、その曲の他に「夢の中へ」「赤ちょうちん」「案山子」「亜麻色の髪

再生すると、流れてくるメロデーが何の歌であるかを言いあて

ることはできたとしても、耳になじまない日本語の数々がフランス語のように聴こえてくるという不思議さを味わった。

「秋田弁って、フランス語!」

地元の方々には非礼をお詫びしたいが、率直な感想だった。

訛り言葉

「大きな古時計」の歌詞は、次のようにはじまる。

大きなのっぽの 古時計
おじいさんの時計
百年いつも動いていた
ご自慢の時計さ と、続く。

ところが、秋田弁の歌詞では、次のように変わっていた。

でっけて背の高け
古くせ時計っこだば
我家の爺っこの時計っこ
米寿と千支一回りも
休まねで動でた

我家の爺っこの時計っこ

比較してみると、もともとの歌詞を秋田弁に直訳して歌っているというわけではなかった。

方言は、基本的に「話し言葉」のことをいう。また、その地域でし

か話されない独特の言葉、アクセントや言葉の語尾なども含むことから、「訛り言葉」ともいう。

訛りは、標準語に比べて音韻上、多少の違いがあるその地域の発音といってもよく、そこに暮らす人々の歴史がいっぱい詰まった言葉であるといってもよい。

2007年5月以来、美郷町の事業所に足を運んだ回数は通算で20回に及んだ。

訪問のたびに「お帰りなさい」と出迎えられ、別れ際には「行ってらっしゃい」と見送られ続けてきた挨拶は標準語だが、会話が弾むと、難解なアクセントから理解に苦しむ言葉も少なくなかった。

流暢に秋田弁を使う代表の出身地は、九州。子どもの小学校入学を機に地域の人たちと地元の訛り言葉で話ができるようになったことで意思疎通も高まったという。

送られてきたCDを聴きながら、お国訛りの方言という社会資源の働きかけなくして真の地域包括ケアの実践は成し得ないのではないか、そんな思いが頭をよぎった。

その代表が、体調を崩した。

トップは、健康第一。

唯唯、全快を祈るのみ。

転期に立つ経営の視座¹⁵

御訛り、って何だ?

りに行われていたことを知ったのは、4月14日の放送を見たからである。

ゲストの滝川クリステルが、秋田弁はフランス語に似ていると発言したこと、これに呼応するように番組内で「大きな古時計」を秋田弁バージョンで歌った曲が流

はやかわ・ひろし

経営コンサルタント。1991年に独立。介護事業に関する独自の調査に基づいたデータ分析を各誌・紙に発表。著書に『99の言葉の杖』(日本医療企画)、『早川浩士の常在学場』(筒井書房)、『介護人財創造塾』(筒井書房)、『介護保険改正に勝つ!経営』(年友企画)、『データで徹底分析 介護事業の最新動向と経営展望』(日本医療企画)など。

<http://www.hayakawa-planning.com>

ブログ: <http://ameblo.jp/hayakawa-planning/>

の乙女「クラリネットをこわしちやった」など全12曲を収録した秋田弁カバーアルバムのCDが送られてきたのである。

タイトルは、「御訛り」。

名古屋在住のシンガーソングライター伊藤秀志(秋田県出身)さんが歌ったもので、発売は11年前。